



In 愛知 part1 実績報告書

- 趣 旨 愛知県の中・高校生のホッケー選手に対して競技力向上とホッケー競技の普及のため、ホッケーオリンピックより、ホッケーの楽しさを伝えると共に世界に羽ばたく選手の育成につなげる。
また、コロナ禍のためスポーツをする機会が減少している状況を踏まえて、改めてスポーツの楽しさを伝える。
- 主 催 (公社) 日本ホッケー協会
- 主 管 愛知県ホッケー協会
- 期 日 令和4年7月16日(土) 9時から12時 中高生男子の部
〃 13時から16時 中高生女子の部
- 場 所 名古屋市庄内緑地公園陸上競技場(人工芝S)
- 参加者 向陽高校 男子 32名
向陽高校 女子 29名
名古屋商業高校 17名
愛知スポーツクラブ(中学生) 3名
- 講 師 山水 翼瑳(現日本代表)
田中 海渡(現日本代表・東京オリンピック代表)
阪口 真紀(リオオリンピック代表)
山下 彰子(元日本代表)
- その他 新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで実施する。
- 担 当 愛知県ホッケー協会 小坂井 悠平

【教室内容】

○午前の部（中高生男子）

9:00 開会式

9:10 w-up

9:20 スキルトレーニング

（ディフェンススキルパート）

① トライゲーム

・1 v 2

・2 v 2

・2 v 1

* 攻守の切り替えを意識

② ブロッキングタックル

（アタッキングスキルパート）

① 1 v 1、2 v 1

② シュート

* ドリブルスキル（スペースにドリブル）

* リードのタイミングとパスフェイント

（パス・ベーシックスキルパート）

① ベーシックスキル（レシーブとパス）

② トライアングルパス（2タッチ）

③ トライアングルパス（1タッチ）

④ フォロー・ザ・ボール

（シュートスキルパート）

① ヒットのフォーム（ポイントをおさえる）

② レシーブからシュート

③ リバースヒット（フォーム、ポイントをおさえる）

④ レシーブからシュート

ドリブルからシュート

11:10 ゲーム（11人制）

* 練習したことを生かす

11:50 質疑応答

12:00 終了

○午後の部（中高生女子）

13:00 開会式

13:10 w-up

13:20 スキルトレーニング

（ディフェンススキルパート）

① ダンシングバック（ステップワーク）

ジョブを出しながらのダンシングバック

（アタッキングスキルパート）

① 1v1、2v1

② シュート

*ドリブルスキル（スペースにドリブル）

*リードのタイミングとパスフェイント

（パス・ベーシックスキルパート）

① ベーシックスキル（レシーブとパス）

② トライアングルパス（2タッチ）

③ トライアングルパス（1タッチ）

④ フォロー・ザ・ボール

（対人スキルパート）

① リバウンドからの3v3、3v2

② 2v2 → 3v2 → 3v3

15:10 ゲーム（5v5v5）

*練習したことを生かす

人数は減らしたり増やしたり

15:50 質疑応答

16:10 終了

【所感】

（一社）愛知ホッケー協会 小坂井 悠平 様 コメント

選手のレベルに合わせた指導でとても為になりました。また、わかりやすい説明や要点を伝えることが上手で生徒だけでなく指導者の勉強にもなりました。質疑応答では普段、私たちが口にするようなこともありましたが、やはり日本代表選手の言うことには重みがあり、生徒に響いていたと思います。希望としてもう少し講師たちのすごいプレーや手本を見ることができたら生徒たちは喜ぶと思いました。

講師コメント

山水 翼瑳さん（表示灯フラーテルホッケーチーム）

夢見るホッケー教室を通して、自分自身も多くのことを学びました。これからもホッケーを楽しんで次のステップで活躍してくれることを期待しています。このような機会をつくっていただき感謝します。

田中 海渡さん（表示灯フラーテルホッケーチーム）

短い時間でしたが、とても楽しむことができました。たくさんの方のアドバイスを吸収して日々のトレーニングや試合に活かしてほしいと思います。また一緒にホッケーができれば嬉しいです。ありがとうございました。

阪口 真紀さん（リオオリンピック代表）

子どもたちにホッケーのスキルやスポーツ選手として必要なことを教えることで、自分自身を見つめ直すことができるホッケー教室でした。一人でも多くの選手が人間力をしっかり持ち、目標を持って頑張っていってほしいなと思いました。ホッケーが普及していくために、今後も全力を尽くしていきたいです。

山下 彰子さん（元日本代表）

1番印象的だったのが、ホッケー教室の終了後に、時間が足りなくなるほどの講師に質問攻めだったことです。その中身も、実践に近いものから基本的なスキルまで幅広かったものの、一人ひとりの課題は明確になっているように感じ、常に疑問を持ちより良くしていこうと取り組んでいるのだなと感じました。もちろん技術力向上も大切ですが、その中でも子どもたちにはホッケーの楽しさを忘れずに練習に励んでほしいと思います。また、選手も学びの多いホッケー教室になったとは思いますが、講師みんなも得るものがたくさんあり、お互い充実したホッケー教室になりました。

【教室風景】





